

# 館内アートの 楽しみ方

劇場を訪れると目に留まるのが、いたるところに設置されたアート作品。たまにはゆっくり立ちどまって、館内で美術鑑賞のひとつときを。



《調 Phrase》多田美波  
設置場所=7階コンサートホール ホワイエ  
36㎡ 色ガラスブロック

東京芸術劇場の設計をした建築家、芦原義信の構想のもと、1990年の開館当初より、多くのアート作品が設置展示された。劇場前広場には、モダンな外観に合う幾何学的なモニュメントやさまざまな彫刻が点在し、館内では、ホールやレストランなど、それぞれの場所と調和した作品が来訪者を出迎える。

たとえば、コンサートホールのホワイエを彩り、作家自身が「光壁」と称した多田美波の《調

Phrase》は、色とりどりのガラスブロックが光を柔らかく反射し、光によるリズムを形成する。コンサートを聴き終えた後、この空間に足を留め、演奏の余韻に浸るのも一興だ。また、5階エントランスの天井に広がる絹谷幸二の三連作フレスコ画《天》《地》《人》は、作家が渡欧中に作画構想を練り、作り上げたもの。開放的な空間で巨大な三つのドームを眺めれば、そのエネルギーに圧倒され、非日常の高揚感を味わえるだろう。



《犬も歩けば足の上》掛井五郎  
設置場所=5階エントランス  
H90 ブロンズ

《宇宙への響き》川原竜三郎  
設置場所=2階プレイハウス ホワイエ  
90×900 ブロンズ



《迷宮へー明日への記念碑》滝川嘉子  
設置場所=5階エントランス  
H50 ガラス



《TOKYO COSMO》内井乃生  
設置場所=5階エントランス  
180×360×3カ所 タペストリー

《天〔蒼天の人〕地〔東京の太陽〕人〔ローマの友達〕》絹谷幸二  
設置場所=5階エントランス天井  
Φ450 フレスコ画



《WAVING FIGURE (波貌)》建畠覚造  
設置場所=劇場外東広場  
H800 ステンレス

